



〈雑録〉社會政策學會大阪講演會記事

松崎, 壽

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 12(6):1091*-1098

(Issue Date)

1912-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051888>



社會政策學會 大阪講演會記事

社會政策學會ハ昨年京都及ビ神戸ニ於テ第一回地方講演會ヲ開キ學術上實際上多大ノ效果ヲ收メタルガ本年ハ更ニ大阪ニ於テ第二回講演會ヲ催スコト、シ、五月五日午後一時ヨリ大阪高等商業學校講堂ニ於テ開會シタリ、左ニ其講演

ノ大要ヲ報ズベシ。

開會ノ辭

大阪高等商業學校講師 寺尾 隆 一君

孟子「天下ノ溺ル之ヲ援クルニ道ヲ以テス」ト謂ヘルガ社會政策ハ實ニ溺ル、天下ヲ援クルニ道ヲ以テセントスルモノニシテ即チ貧富ノ甚シキ懸隔ヨリ起ル社會ノ不利ヲ除キ其圓滿ナル進歩發達ヲ圖ル方法タルナリ從ツテ素ヨリ社會主義ト相反ス、最モ社會主義テフ語ニハ廣狹二義アリ、廣義ニ於テハ小數ノ利益ト多數ノ利益ト衝突シタル場合ニ後者ノ爲メニ前者ヲ犧牲ニ供セントスルモノニシテ斯ル意味ニ於テハ所謂公共主義ト合致シ亦社會政策ノ全々賛同スル所タリ、何トナレバ此奉公心微リセバ社會政策ノ實行シ能ハザルハ勿論國家社會モ一日ノ存在ヲ完フスルコト能ハザレバナリ、然ルニ世上社會主義ト稱スルモノハ其實廣義ノモノニアラズシテ狹義ノ夫ナリ即チ萬事萬端其是非利害ヲ顧ミズ如何ナル場合ニ於テモ個人ノ利益ヲ公衆ノ利益ノ犧牲タラシメントシ結局私有財産制度及ビ自由競争ヲ否認シ資本家及ビ地主ヲ絶滅セシメザレバ止マザラントス誠ニ以テ吾人ノ反對セザルヲ得ザル所ナリ、元來人類其者ノ生レ乍ラノ平等ヲ假想シ其價值ノ均一ヲ夢想セントスル如キハ暴モ亦甚シト謂フベシ、孟子曰ハズヤ「夫レ物ノ齊シカラザルハ物ノ情也、或ハ倍蓰シ或ハ相千

萬ス、子比シテ之レヲ同ウス是レ天下ヲ亂ル也」ト、社會ノ利益ノ爲メニ社會組織ヲ改造セントスル社會主義者ノ主張ハ勞働者社會テフ一部ノ利益ノ爲メニ全社會組織ヲ改造セントスル我利的主張ニ外ナラザルナリ。

惟フニ社會政策ハ古ノ所謂王者ノ道ニシテ資本家階級ニ偏セズ勞働者階級ニ黨セズ人類ノ幸福ヲ増進セントスル目的ヲ達スルノ手段トシテ偶々時アリテカ勞働者ヲ保護シ時アリテカ資本家ヲ庇護スル事アル而已、從ツテ夫ガ勞働者ノ保護ヲ絶叫スルモ特ニ勞働者階級ノ爲メニ勞働者ノ保護ヲ絶叫スルニアラズシテ保護其者ガ人類全體乃至國民經濟ノ利益ニ合スル場合ニ於テ始メテ之レヲ主張スルナリ、サレバ同様ノ理由ニヨリ必要ノ場合ニハ亦資本家ノ保護ヲ主張スルヲ憚ラザルナリ、此意味ニ於テ近時ノ極端ナル思想ニ捉ハレタル「サンザカリズム」ニ對シテ社會政策ガ如何ナル態度ヲ採ラザルベカラザルヤハ蓋シ最モ興味アル問題ト謂フベシ。

歡迎ノ辭

大阪高等商業學校長 加藤 彰 廉君

社會政策學會ノ會員諸君ガ我大阪ノ地ニ來リテ國家社會ノ爲メ平常懷抱セラル、主義綱領ヲ擴布セラレントス誠ニ感謝ニ耐ヘザルナリ、余ハ今多クヲ謂フノ要ナシ唯心カラナル歡迎ノ辭ヲ諸君ニ呈スル而已。

海員給料問題

早稻田大學教授 伊藤重治郎君

最近我海運界ニ起リタル下級海員ノ同盟罷工ハ神戸ヲ起因トシテ遂ニ横濱ニ於テ爆發シタルモノナルガ今其眞因ヲ尋ヌルニ海員ノ給料ガ物價ノ騰貴ニ伴ハザリシ事實ニ歸セザルヲ得ズ、之レヲ實際ノ數字ニ就イテ見レバ郵船會社ニ於テハ去ル二十九年海員ノ賃銀チ一定シタル以來四十二年ニ僅カニ一圓ノ増給ヲ爲シタルノミニテ殆ンド固定ノ狀態ニアリ、而シテ今日ノ平均賃銀ハ拾壹圓五拾錢ニ過ギザレバ到底妻子ヲ養フコト能ハザルヤ明ラカナリサレバ増給問題ハ常ニ彼等ノ思惟セシ所ナレドモ未ダ公然立ツテ之レヲ主張スルニ至ラズ、偶々今日ノ如キ海運界ノ好況ニ乘ジテ同盟シタルモノニシテ誠ニ同情ニ價スルモノナリト謂フベシ。

然ラバ此問題ノ解決ニ對シテ探ルベキ方針ハ如何、惟フニ給料ノ増加ヲ措キテ他ニ良法アラザルベシ、而シテ其方法ニハ次ギノ二アリ、即チ其一ハ海員ニ對シ陸上労働者ヨリ一層充分ナル給料ヲ供スルコト是ナリ、蓋シ海員チ陸上ノ労働者ニ比スルニ其難易同日ノ論ニアラズ其理由ハ(一)海上ニ於ケル労働ハ極メテ危險ナリ(二)海難ノ際海員ハ必ズ自己ノ身命ヲ犠牲ニ供シテ乘客ノ安全ヲ圖ラザルベカラズ(三)労働ノ困難ナルハ勿論氣候ノ激變ニ耐エザルベカラズ(四)全ク家庭ト

遠カリ其趣味ヲ味フコト難シ(五)船中ニハ船員ニ對スル休養娛樂ノ機關全ク缺除セリ、故ニ今日ノ如ク陸上ニ於ケル労働者ノ需要多キ場合ニハ進ンデ海上ノ労働ニ服セントスルモノ漸次減少シ剩ヘ海上労働者モ亦陸上ニ移ラントスル傾向アルガ故ニ彼等チシテ長ク海上労働ニ從事セシメ、熟練ナル海員ヲ養生セントスルニハ單ニ需要供給ノ法則ニテ賃銀ヲ決定スル以外特ニ高率ヲ維持スルノ必要アルハ論ヲ俟タズ。

第二ニハ利益分配制度ヲ設ケルコト之レナリ、即チ利益ノ一部チ一定ノ割合ヲ以テ使用人タル海員ニモ分配スルコトニシテ今假リニ此種ノ計算ヲ試ミルニ先ヅ一割ノ配當ヲ爲ストセバ郵船會社ハ海員一人ニ就キ四圓、商船會社ニテハ四圓七拾錢ノ給與ヲ爲スコトヲ得ル勘定ナリ然レドモ此金額チ一時ニ給スルコトハ却テ種々ノ弊害ヲ生ズル怖アレバ半額チ下付シ殘額ハ不時ノ準備トシテ積立金ト爲シ置クノ必要アリ、斯クテ利益分配制度具ラバ之レニ依ツテ海員ト船主トノ利害チ一致セシメ、法外ニ高率ナル給料ヲ支拂ハズトモ單ニ彼等ノ生活ヲ維持スルニ足ル賃銀ニテ足り、其以上ハ彼等ノ勤意如何ニヨツテ配當ニ相違アルコト、ナルガ故ニ勢ヒ其事業ニ忠實ナラシムルコトヲ得ベキナリ。

同盟罷工論

慶應義塾大學教授 氣賀勘重君

同盟罷工ハ我國ニ於テハ尙其數極メテ渺ナケレドモ労働者

ノ間ニ教育智識ノ普及スルニ連レ必ズ増加スルニ至ルベキハ敢テ疑ナク容レズ、今日獨逸ニテハ其數年々三千、米國ニテ二千下ラズ、比較的罷工ノ少シト稱セラル、英國ノ如キモ尙一千以上ヲ算スル有様ナリ、斯クノ如ク頻繁ニ同盟罷工ノ起ル原因ヲ見ルニ枝葉ナルモノハ頗ル多岐ニ亘レドモ其大部分ガ賃銀問題ニ在ルハ爭フベカラズ、然レドモ罷工ヲ爲スガ爲メニ資本家、労働者相方ガ受クル損害ハ決シテ僅少ニアラザルニ其利益如何ト視レバ獨逸ノ労働者ガ同盟罷工ヲナスニヨリテ賃銀ノ増加ヲ圖リ得ル割合ハ一箇年平均僅々一馬ナリト調フ、而カモ數アル同盟罷工ノ中首尾ヨク其目的ヲ達シ得ルモノハ全體ノ約半數ニ過ギザルノ事實ニ徴スレバ經濟上ヨリ觀察シタル同盟罷工ノ價值ハ寧ロ損失利益ヲ凌グト曰ハザルベカラズ。

故ニ能フベケンバ事前ニ之レガ豫防策ヲ講ズルノ必要アリト雖モ此ハ其成效ヲ期スルコト全ク不可能ナリ、或論者ノ如キハ雇主ト労働者トノ間ニ主従關係ヲ存續セシムルニ力ムベシト云ヘドモ教育ノ普及、權利思想ノ發達ニ連レテ到底其永續ヲ望ムベカラズ、然ラバ同盟罷工ノ鎮壓策ハ法律ノ力ナシテ強制的ニ之レヲ爲スベキヤ、答ヘテ曰ク非ナリ、何トナレバ各人團結シテ自己ノ利益ヲ圖ルハ素ヨリ正當ナル行爲ニシテ現ニ資本家ノ間ニ於テモ同盟ノ行動ニ出ヅルコト決シテ

尠ナカラズ、唯其異ル所ハ數ノ多少ノミ、即チ労働者ノ團結ガ數ノ多クシテ大規模ナルガ故ニ之レヲ鎮壓セシメントスルハ不當モ亦甚シ、而シテ權力ニ訴ヘテ之レヲ禁止セシメントスレバこそ却テ反抗的態度ヲ招キ其結果無政府主義、無主義ノ勃興ヲ視ルニ至ル、故ニ同盟罷工ノ解決策トシテハ労働者ノ團結即チ職工組合ノ發達ヲ圖ルノ外他ニ良法アラザルベシ、念フニ職工組合ガ労働者ヨリ一定ノ釐金ヲ爲サシメ同盟罷工ノ爆發セル際之レガ軍資金ニ充テントスルハ一見罷工ヲ増加セシムルノ觀ナキニアラズト雖モ其實ハ然ラズ、其資金増加スルト共ニ組合ノ地盤ハ益々強固ナルニ至ルベケレバ資本家モ猥リニ組合員ヲ壓迫スルコト能ハズシテ多クノ問題ハ職工組合ノ代表者トノ協定ニヨツテ圓滿ニ解決スルコトヲ得ベキナリ、之レ相互救済ノ理法ニシテ資本家ト労働者トノ對等ノ協約者タラシムル所以ナリ、但シ職工組合ノ存在スルモ罷工ノ絶滅ヲ期スルコト能ハザルハ勿論却テ一旦爆發アル際ニハ一層峻烈ノ度ヲ加フルニ至ルベクレバ所謂仲裁和解ノ機關ヲ設ケテ其慘害ヲ減少スルニ努ムベシナリ。

社會政策ト保險

東京高等商業學校教授 石川 文 吾君

現今ノ社會ニ於テ社會政策ノ必要起リ來ル原因ハ多々アルベシト雖モ其主要ナルモノ、一ツハ社會ノ根底ニ豫知スベカ

ラザル危險ノ伏在スルアリテ之レガ爲メニ元來平等ナルベキ人類ニ貧富、強弱、幸不幸等ノ甚ダシキ運庭ヲ生ズルニ至ルモノナリ、故ニ此危險ヲ除クベキ方法ハ人生ニ安全ナル保障ヲ與フルモノニシテ又一ツノ社會政策タルヲ失ハズ、而シテ此職責ヲ盡スモノハ實ニ保險ノ制度ナリ、然ルニ世ニハ保險ヲ以テ賭博ト同一視スルモノナキニアラザレドモ此ハ大ニ非ナリ、何トナレバ保險ハ被保險者ヨリ見レバ後圖ノ念ノ顯ハサレタル形式ニシテ其所有ニ屬スル利益ガ必ズ遭遇スベキ危險ニ由リテ被ムル損害ヲ免レン爲メ豫メ保險者ニ報酬ヲ支拂フモノニシテ之レ不慥ナル大損害ニ代フルニ慥カナル小損害ヲ以テセントスルモノニ外ナラズ、然ルニ賭博者 Gambler ハ之レニ反シ危險ニ頻スル利益ノ確保ヲ目的トセズ、即チ其爲ス所ハ慥カナル小利ヲ守ラズシテ不慥ナル大利ノ獲得ヲ冒險セントスルモノナリ其相違ノ何ゾ夫レ甚ダシキヤ、カクノ如ク保險ハ吾人ノ周圍ニ存在スル危險ヲ排除セントスルモノニシテ此レヲ利用スルモノハ始メテヨク投機ノ分子ト遠カルコトヲ得ルニ至ルモノナリ、換言スレバ保險ヲ了解セズ之レヲ利用セザル人コソ大ナル投機ノ危險ヲ冒シ賭博ヲ營ムモノト云フベシ、而シテ今日モナコノ如キ特殊ノ邦國ヲ除キ賭博ヲ禁止セルハ各國皆其軌チ一二セル所ナリ、サレバ賭博禁制ノ理由ハ偶々以テ保險ノ強制ヲ訓フモノニアラズシテ何ゾヤ、然

レドモ此理ヲ極端ニ貫キ貧富強弱ノ差別ナク總テノ人ニ保險ヲ強制セントスルハ亦餘リニ實際ニ疎シ、憶フニ保險強制ノ範圍ハ須ラク勞動者階級ニ限レバ可ナルベシ、即チ勞動者ハ内ニ恒産ナク手足ノ勞動ニヨリテ其日ヲ過スモノナレバ一旦厄災疾病負傷等ノ襲フアランカ直ニ糊口ニ離レザルヲ得ザルナリ、果シテ然ラバ保險ノ利用ニヨリ彼等ヲシテ恒産アル人タラシムルハ誠ニ之レ焦眉ノ急務ナリ惟フニ社會政策ノ實行方法ハ種々アルベシト雖モ保險ノ利用ハ其最モ有效ナルモノ、一ニシテ保險ヲ充分ニヨク了解セルモノハ最モ良ク社會政策ヲ實行セルモノト謂ヒ得ベケム。

社會政策ノ方針

法學博士 桑 田 熊 藏君

社會政策ナル語ハ從來民間ニ行ハレタルニ止マリ未ダ官僚ノ用語トナルニ至ラザリシガ余ハ前期議會ニ於テ「現政府ノ社會政策ニ對スル方針如何」トノ質問ヲ提出シ時ノ内相平田氏ヨリ約一時間ニ亘ル叮嚀ナル答辯ヲ得タリ、之レニテ我社會政策ハ始メテ官僚ノ公認ヲ得タル譯ニテ公然ト主張シ得ルニ至リシハ誠ニ吾人ノ意ヲ強ウスルニ足ル所ナリ、惟フニ社會政策ノ方針ハ三ツノ方面ニ區別スルコトヲ得即チ（一）國家的（二）慈善的（三）個人的方針之レナリ、國家的の方針ハ國家ノ權力ヲ以テ立法又ハ行政ノ手段ニ倚リ社會問題ヲ解決セン

トスルモノニシテ所謂自由競争ノ戰敗者タル弱者ヲ庇護シテ其生存ヲ全ウセシメントスルモノニ外ナラズ經濟上ヨリ論ズレバ富者ヲ抑ヘテ貧者ヲ扶クルナリ、所謂古ノ王道モ此意味ニ於テハ今日ノ社會政策ト全ク其精神ヲ同ウスルモノト云フベシ、慈善の方針トハ家族主義即チ主従關係ヲ以テ資本家ト労働者トノ軋轢ヲ防ガントスルモノニシテ或意味ニ於テハ經濟ト道德トノ調和ヲ圖ルモノナリ、個人的の方針トハ労働者ノ自助ノ精神ニ基キ自ラ團體ヲ作り相互救済ノ方法ヲ以テ社會問題ヲ解決セントスルモノナリ現今此種ノ施設トシテ最モ著シキモノハ共同ノ購買ヲ目的トスル産業組合ト雇傭關係ニ就キ資本家ト對等ノ協定ヲ爲サントスル職工組合ト制度之レナリ、今此三法ニ就テ批評ナクサントスル國家的の方針ハ或程度迄有效ナルハ明ラカナレドモ若シ其範圍ヲ超ヘナバ労働者ノ獨立心ヲ傷ケ其依頼心ヲ助長セシムルノ弊害ヲ生ジ然ラザレバ猥リニ労働者ヲ牽束シテ其社會主義ノ發生ヲ促スニ至ルベシ慈善の方針ハ資本家ニ慈善心アリテ始メテ行フコトヲ得ベケンモ而カモ事業經營ノ規模益々大トナリ多數ノ労働者ヲ使用スルガ如キ場合ニ於テモ實行甚ダ不可能ナリ而シテ此方法モ動モスレバ労働者ノ人格ヲ無視スル傾向ナキニアラズ、個人的の方針ハ労働者ノ獨立心ヲ發達セシメ且共同自營ノ念ヲ進ムル點ニ於テ社會政策上最モ有效ノ方法ナレドモ國土民情ノ相

違ニヨリ必ズシモ總テノ國ニ行ヒテ實效ヲ期シ得ベキモノニアラズ、然ラバ醜ツテ我國ニ於ケル社會政策ノ現狀ハ如何憶フテ茲ニ至レバ誠ニ啞然タラザルヲ得ザルナリ、即チ政府ノ豫算ニ就テ視ルモ社會政策ノ爲メニ支出セル金額ハ僅々七八拾萬圓ニ過ギズシテ之レヲ英國ノ養老年金ノミニ對スルハ千萬圓、獨逸ノ労働保險ノミニ支出セル貳千萬圓ニ比スレバ實ニ雲泥ノ相異アリ且昨年發表セラレタル工場法ノ如キモ不完全極マルモノニシテ之レガ制定ニ前後十五箇年ノ歲月ヲ費シタルヲ念ヘバ唯々驚嘆スルノ外ナシ、而カモカ、ル不完全ナル工場法スラ尙實施セラレザルニアラズヤ、而シテ國家的労働保險(真正ノ意味ニ於ケル労働保險ニアラザルモ)トシテハ僅カニ遞信省ノ小口生命保險生レントシツ、アルノミ、其他慈善の方針トシテハ約三百ノ慈善事業アレドモ其中確實ト認ムベキハ半數位ニ過ギザルベキカ、最モ近來此等ノ慈善事業ヲ統一スル必要ヲ感ジ中央慈善協會ノ設立ヲ見タリ、若シ夫レ個人的の方針ニ至リテハ其振ハザルコト更ニ一層甚ダシク農業ヲ除キテハ産業組合ト目スベキモノ殆ンドアルナク職工組合ニ至リテハ現時ハ全ク皆無ナリ、斯クノ如ク我國ノ社會政策ハ尙極メテ幼稚ナレバ將來此方面ニ國民ノ注意ヲ促ス必要層一層大ナリト云フベシ。

生存權ノ理論

法學博士 福田 德三君

最上ノ理論ハ常ニ必ズ最上ノ實際ニ合致ストノ先哲ノ言ハ誠ニ眞ナルカナ、近來我國ニ於テ常ニ實際ヲ標榜セル所謂實業家が漸ク理論ニ觸接スルニ至リシハ偶々以テ理論ノ權威學問ノ眞價ヲ示スモノト云フベシ、故ニ今余ハ此意味ニ於テ理論ヲ云爲スル亦必ズシモ意義ナキニアラザルベシ、憶フニ生存權ナル語ハ耳新ラシク聞ユレドモ其思想ハ決シテ近代ニ始マリタルニアラズシテ古クヨリ存シ唯其學說トシテノ發展ガ漸ク最近ノ事ニ屬スルノミ、從來權利ト云ヘバ民法ノ規定ニ見ユル所有權、地上權、永小作權、質權、抵當權等ヲ示セルガ此等ノ權利ハ何レモ所有權ヲ基礎トシテ發セルモノナレバ此レヲ私權ト稱スベク之レニ對シテ近來社會權 *Social rights*、又ハ公權ト稱スルモノ發達スルニ至レリ、社會權ニハ三ツノ種類アリ、曰ハク(一)勞働權 *Droit au travail* (二)勞働全收權 *Right to secure the whole product* (三)生存權 *Droit à l'existence* 之レナリ。元來所有權ハ所有ノ事實ダニ無之クバ其存在ノ意義ヲ失フモノナルヲ以テ現今ノ社會ニ於テ之アルガ爲メニ恩惠ヲ受クルモノハ遺產相續者若シクハ資本家而已、夫以外ノモノハ所有權ノ存在ニヨリテ何等ノ實益ヲ受クル所ナシ茲ニ於テカ所有權ノ保護ニ浴スルコト能ハザルモノハ手足ノ

勞働ニヨリテ糊口ヲ淺クノ外ナク始メテ勞働權ノ必要ヲ視ルニ至ル、然ルニ勞働ヲ收客スベキ職業ノ數ニハ自ラ限リアルガ故ニ或ル者ハ職業ヲ得ルコト能ハズシテ無職者問題起リ、又既ニ一定ノ職業ヲ得タルモノモ動モスレバ其職ヲ失フノ怖ナキニアラズ仍ナ其所ニ失職者問題ノ發生ヲ見ルナリ、然ルニ尙一步ヲ進メテ巨細ニ觀察スレバ假令一定ノ職業ニ就ケルモノニテモ其勞働ノ效果ヲ充分ニ享樂スルコトヲ得ルヤ否ヤハ亦疑問ナリ、而シテ實際ニ於テハ勞働ノ成果ヲ大部分他人ニ奪略セラレ、ノ實例モ極メテ多シ、サレバ勞働權アルモ勞働全收權確立セラレ、ニ非ズンバ其名ハ空虛ニ等シ然レドモ今日ノ所勞働全收權モ亦甚ダ覺ツカナキモノト云フベシ、斯クノ如ク勞働權モ不安ナリ勞働全收權モ亦依頼スルニ足ラズトセバ更ニ其根本ニ遡リテ生存權ノ理論ヲ叫バザルヲ得ズ之レ社會問題ガ益々強烈ナル色彩ト鋭敏ナル調子トヲ呈スルニ至ル所以ナリ、然ルニ之レガ解決策トシテ現社會ニ存スルモノハ唯一ノ自然淘汰適者生存ノ法則アル而已、誠ニ自然淘汰ノ法則ガ其名ノ示ス如ク適者ノミチ殘存セシメテ不適者ヲ撲滅スルヲ得レバ理想ニ適セタルモノナレドモ其實ハ然ラズシテ不適者ト共ニ無數ノ適者ヲモ遺棄スルニ至ルハ惜ムベキ所ナリ此理ハ一生物ノ發生ニツイテ見ルモ直ニ知ルコトヲ得ベシ、實ニ自然ハ此點ニ於テハ誠ニ贅澤ヲ極メタルモノニシテ

吾人ハ寧ロ自然淘汰ノ法則ト言ハズシテ自然贅澤ノ法則ト云ヒタル方其實際ニ適セルヲ覺ユ、要スルニ勞働權、勞働全收權、生存權等ノ發生ノ爲メニ常ニ苦シメラル、モノハ我經濟學ニシテ今ニ於チハ少クトモ之レニ對シテ何等カノ理論ヲ確立セザルベカラザルノ秋至レリ憶フニ生チ與ヘタル以上亦此レガ保證ヲ與ヘヨトノ要求ハ理論上蓋シ正當ナルモノニシテ熟考スベキ價值アリト信ズ、現ニ英國ニ於テ既ニ施設セラレヌ其實行ノ途ニアル養老年金制度、勞働保險制度、將又最低賃銀ノ公定等ノ問題ハ皆生存權ノ外部ニ顯ハレタル一形式ニ外ナラズ、我國ニ於テモ必ズヤ將來斯ル問題ヲ惹起スルニ至ルベシ經世ニ意アルモノ深ク顧慮セズシテ可ナランヤ。

附言、以上ハ當日講演ノ大要ナレドモ不充分ナル筆記ニヨリテ草シタルモノ故論旨ヲ誤リ或ハ事實ノ謬記少ナカラザルベシ、此等ハ總テ筆者ノ罪ナリ一言其旨ヲ附記シテ講演者ト讀者トニ謝ス(松崎壽)

正 誤

本誌第十二卷第六號所載「社會政策學會大阪
講演會記事」中左ノ通り正誤ス

誤 正

上	一七七頁	十三行	Sozialrechts	Sozialrecht
段	十五行		Droit au travail	Droit au travail
	十六行		Right to secure the whole produce	Right to the whole produce of labour